

## 新潟焼山の火山活動解説資料(平成29年8月)

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

山頂部東側斜面の噴煙高度は2016年秋から低下傾向がみられるものの、長期的には、2015年夏以前と比べて引き続きやや高い状態です。

火山性地震は静穏だった2014年以前と比べるとやや多い状態が続いています。

今後の火山活動の推移に引き続き注意してください。山頂から半径1km以内(想定火口内)では、地元自治体等により立入規制が実施されています。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

#### ・表面現象の状況(図2、図3 - 、図4~5)

今期間、監視カメラでは、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多かったが、観測できた時間帯は、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は観測されませんでした。2015年夏頃から噴煙はやや高く上がる傾向が認められ、2015年12月下旬からは噴煙量も多くなりました。2016年秋から噴煙高度は低下していますが、長期的には2015年夏以前と比べてやや高い状態が続いています。

#### ・地震や微動の発生状況(図3 - 、図6~8)

2016年5月1日以降、振幅の小さな火山性地震がやや増加しました。その後、火山性地震は減少し、少ない状態となっているものの、静穏だった2014年以前と比べると、長期的にはやや多い状態となっています。

火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況(図1、図3 - )

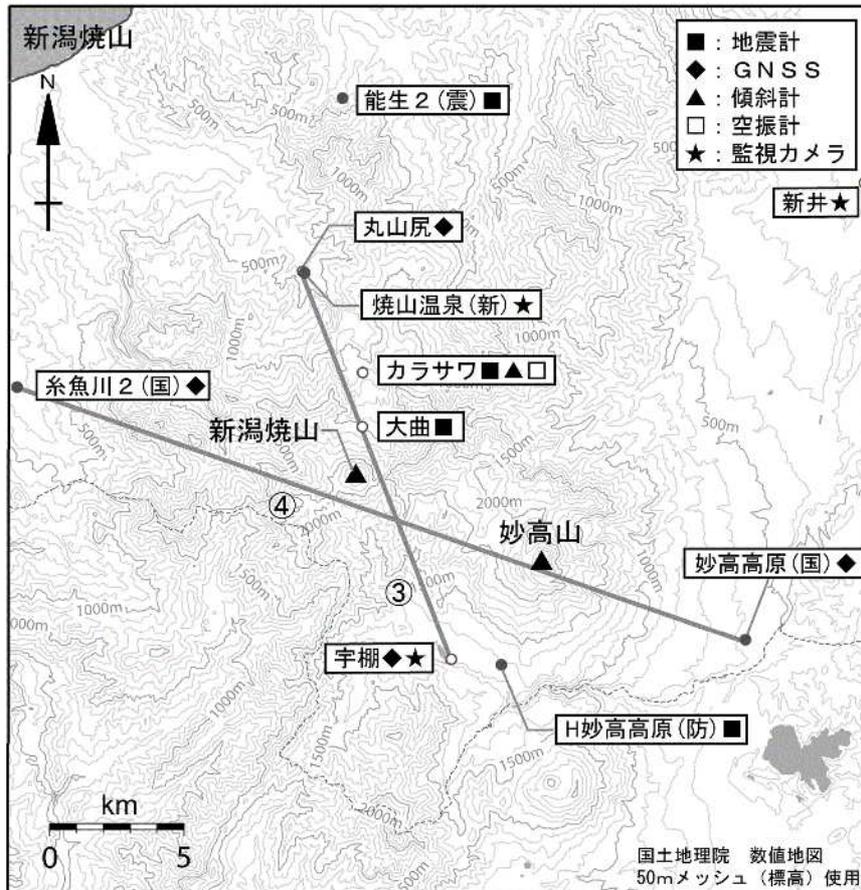
GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、2016年1月頃から新潟焼山を南北に挟む基線で伸びがみられていましたが、2016年夏以降は停滞傾向が認められます。

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成29年9月分)は平成29年10月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び新潟県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』『数値地図25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平26情使、第578号)。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(震): 東京大学地震研究所、(新): 新潟県

図1 新潟焼山 観測点配置図  
 (GNSS基線は図3の に対応しています。)



図2 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況  
 (左: 焼山温泉監視カメラ(8月5日) 右: 宇棚監視カメラ(8月26日)による)

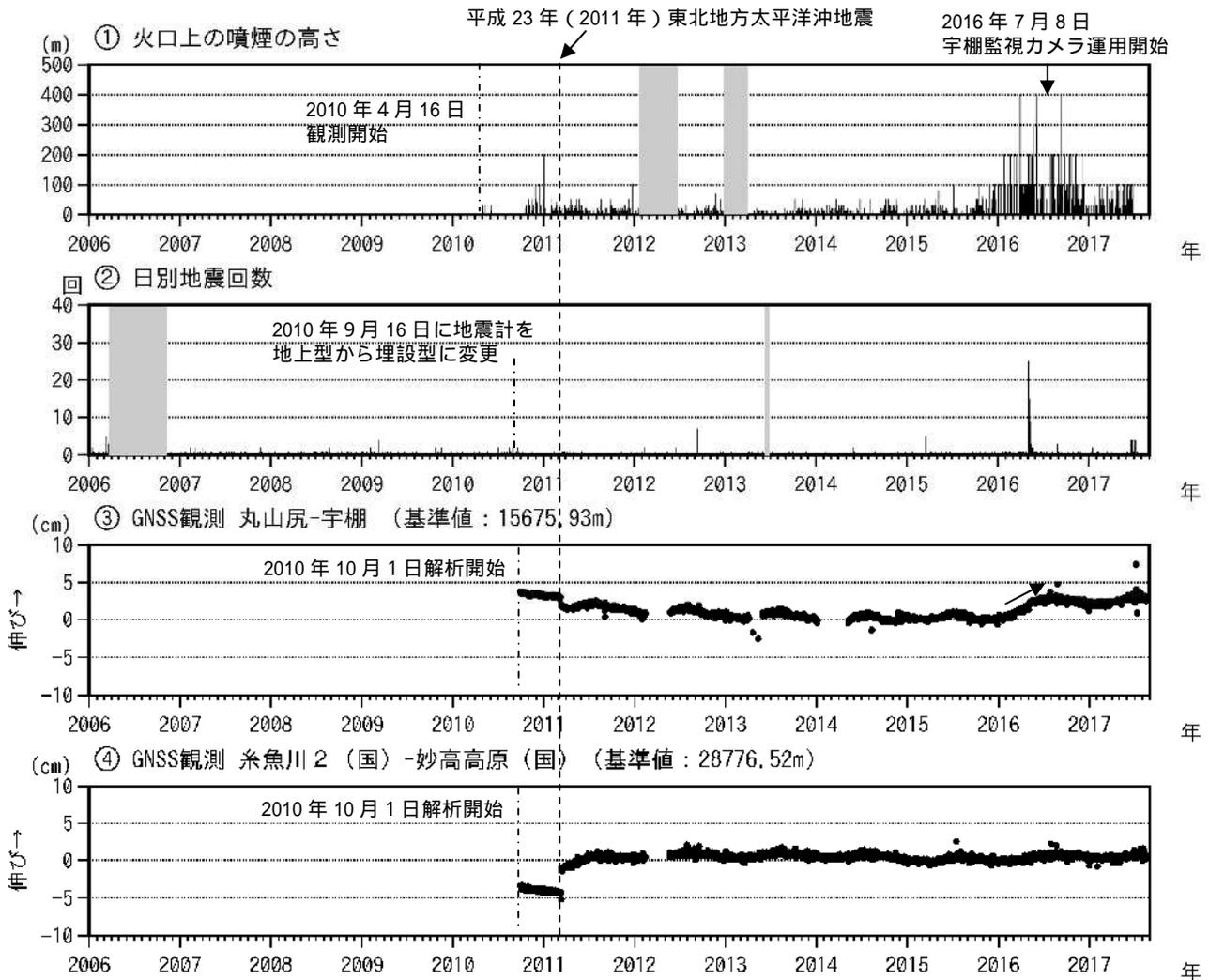


図3 新潟焼山 火山活動経過図(2006年1月1日~2017年8月31日)

(国): 国土地理院

- ・今期間、監視カメラでは、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多かったが、観測できた時間帯は、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は観測されませんでした。
- ・の基線で2016年1月頃から伸び(矢印)がみられていましたが、2016年夏以降は停滞傾向が認められます。
- ・図の灰色部分は機器障害による欠測を示します。
- ・グラフの空白部分は欠測を示します。

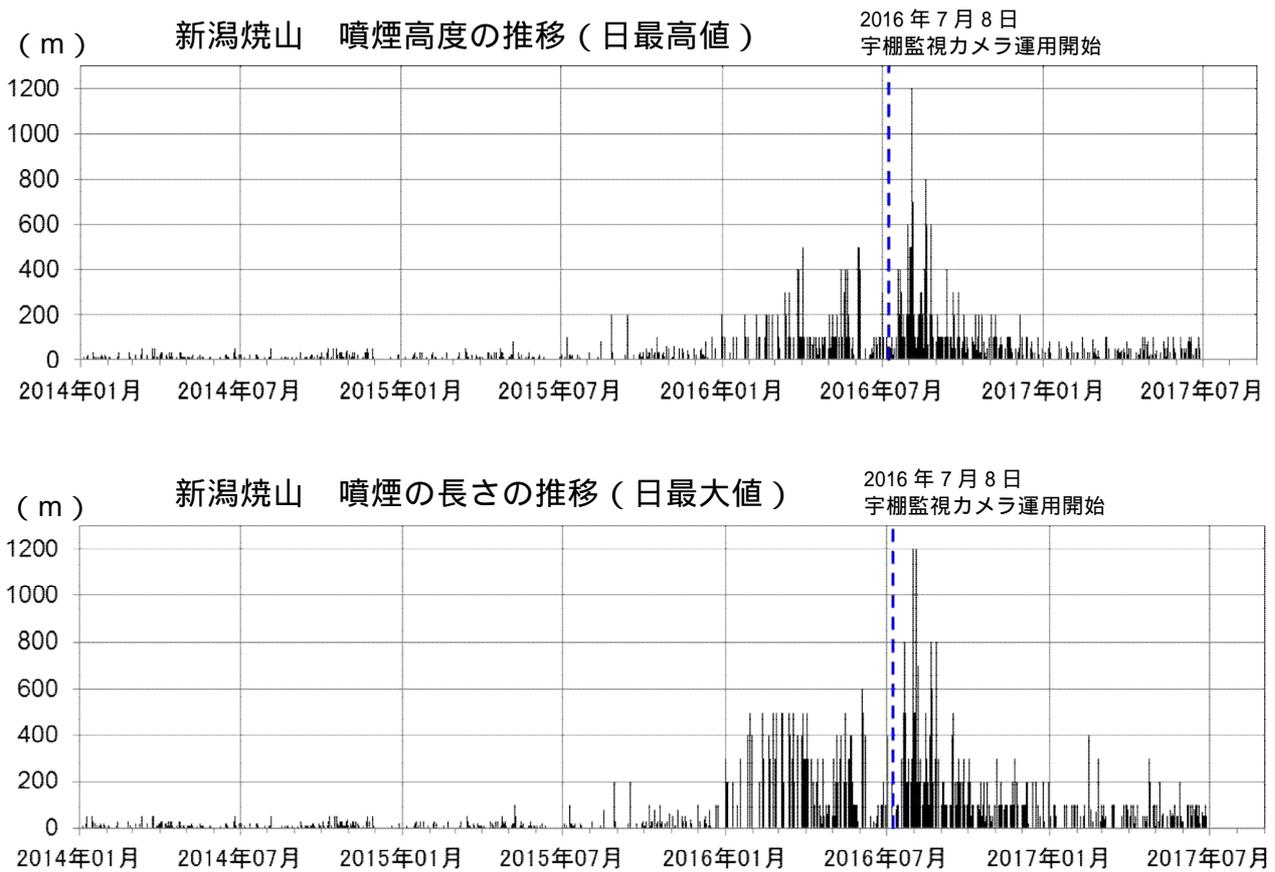


図4 新潟焼山 噴煙高度と噴煙の長さの推移  
(それぞれ日最高値及び日最大値、2014年1月1日～2017年8月31日)

- ・今期間、監視カメラでは、雲のため山頂部が見える期間は短かったものの、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は観測されませんでした。
- ・噴煙高度は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ(図5参照)のグラフも示しています。
- ・2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました(宇棚監視カメラの位置は図1を参照)。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

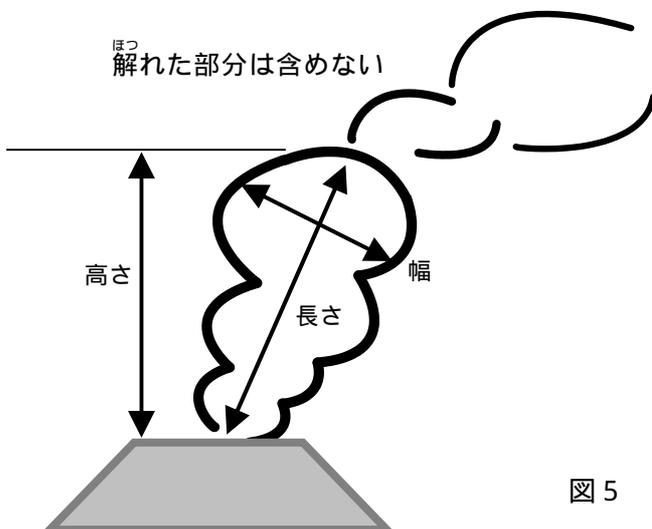


図5 噴煙の長さ、幅、高さの概念図



図 6 新潟焼山 日別地震回数（2014 年 1 月 1 日～2017 年 8 月 31 日）

- ・2016 年 5 月 1 日以降、振幅の小さな火山性地震がやや増加しました。その後、火山性地震は減少したものの、静穏だった 2014 年以前と比べるとやや多い状態が続いています。
- ・地震の主な種類（図 7 参照）ごとの回数を掲載しています。

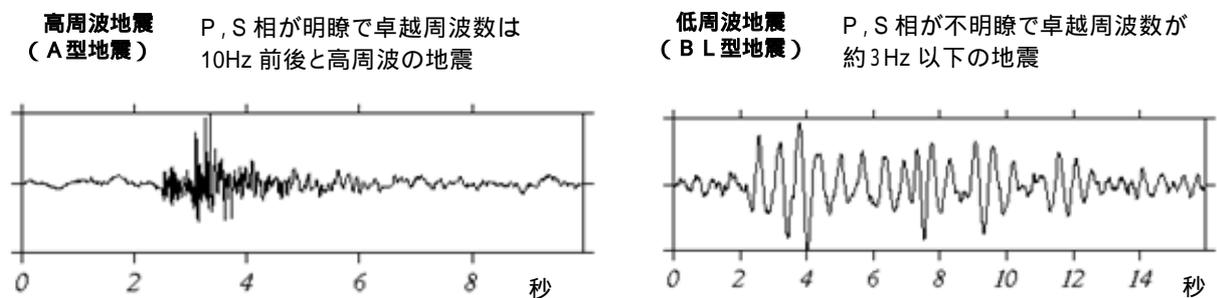


図 7 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例

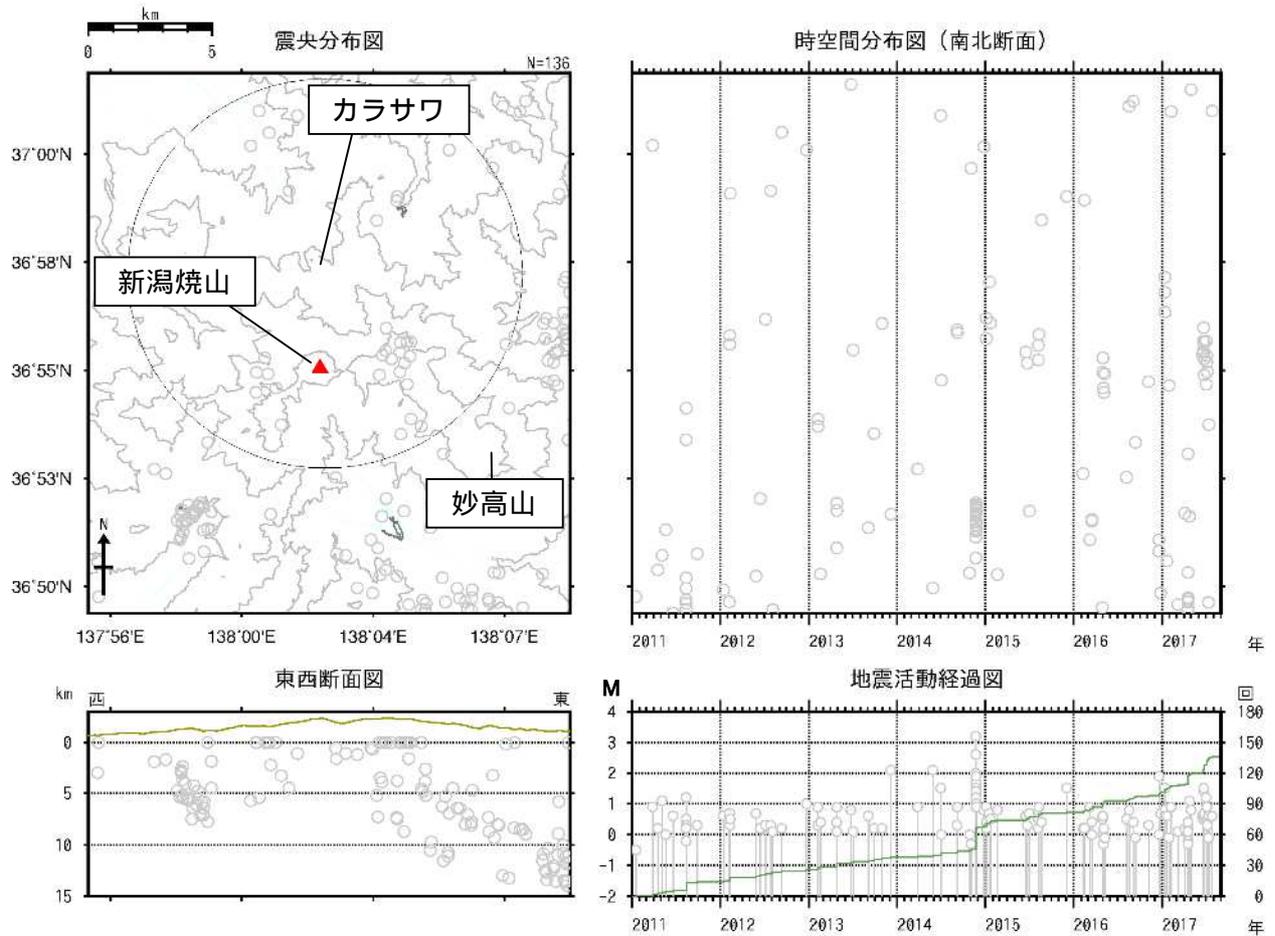


図 8 新潟焼山 広域地震観測網による山体周辺の地震活動(2011年1月1日~2017年8月31日)  
 : 2011年1月1日~2017年7月31日      : 2017年8月1日~8月31日

- ・今期間、新潟焼山周辺で震源の求まった地震はありません。
- ・震央分布図中の円は図3 - 及び図6の計数対象地震(カラサワでS-P時間1.5秒以内)のおよその範囲を示しています。
- ・広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
- ・M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
- ・図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。